

群 教 セ	G01 - 04
	平27.257集
	国語 - 高

# 「書き手の思考の流れ」を正確に理解する 能力の育成

—協働学習のための学習プリントの工夫—

特別研修員 伊藤 博一

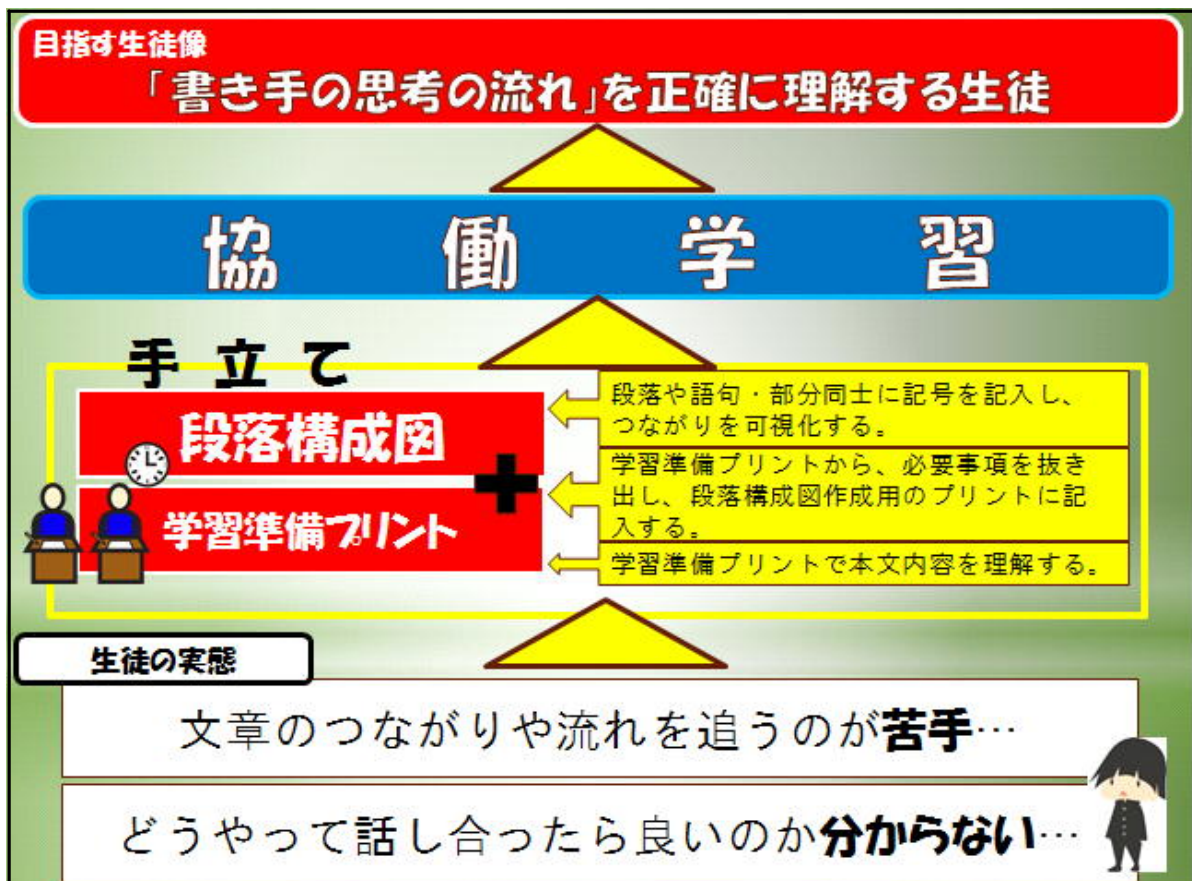
## I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領における国語総合「C 読むこと」の指導事項に「エ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。」とある。「文章の構成や展開を確かめ」とは、段落同士や語句・部分同士のつながりを意識して「書き手の思考の流れ」を理解することであり、そのことが「書き手の意図」をつかむ能力につながる。しかし、本校の生徒は漢字や語句の意味などの知識の習得に当たる課題が与えられた場合はよく取り組むが、文章中の段落同士や語句・部分同士のつながりを自ら考えて主体的に全体像を把握することに苦手意識を持っている。

このことから、段落同士や語句・部分同士のつながりを意識して、「書き手の思考の流れ」を理解する学習活動が必要であると考えた。この学習活動を行うに当たって、今年度より県教育委員会が推進する「群馬県高校生ステップアップサポート事業」で主体的・協働的に課題解決する学習方法が求められていることを踏まえ、協働学習で行うこととした。さらに、協働学習で用いる学習プリントを工夫すれば、主体的に話し合いながら考える態度も醸成できるだろう。以上の点から、学習プリントを効果的に用いた主体的・協働的な学習活動を通して、「書き手の思考の流れ」を正確に理解する生徒が育成できると考え今回のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1) 実践1における研究上の手立て

小説「羅生門」を題材に、協働学習を通して書き手の意図につながる「下人の人物像」を捉えさせることを目的とする。協働学習の助けとして、学習準備プリントを用意した。

#### 実践1における研究上の手立て

- 単元の初めに学習準備プリントを用意し、「羅生門」の各場面についての内容を理解させる。
  - ・ プリントの設問は、生徒が取り組みやすいよう1問1答方式とし、登場人物の心情確認が場面ごとに行える問題をプリント1枚につき片面に5問程度用意する。
- 学習準備プリントをもとに、協働学習に取り組みせ、「下人の人物象」を理解させる。
  - ・ 学習準備プリントで確認した内容の中から「下人の心情の移り変わり」に着目させる。

協働学習のための学習準備プリントは、場面ごとの心情を発見するという点では大いに役に立った。しかし、そのプリントだけでは、生徒が何について話し合えば良いのか迷ってしまい、「書き手の思考の流れ」を意識し、話し合う学習活動にはつながりにくかった。そこで、今後の実践においては、「書き手の思考の流れ」を可視化するための学習プリントも用意し、協働学習の助けとすることにした。

### (2) 実践2における研究上の手立て

評論「見る」を題材に、「書き手の思考の流れ」を理解させることを目的とした。実践1の課題を踏まえ、学習準備プリントと併せて段落構成図作成用のプリントを用意した。これらのプリントを使い、段落や語句・部分同士のつながりを記号を用いて可視化させ、その後、協働学習を通して「書き手の思考の流れ」を深く理解させることとした。

#### 実践2における研究上の手立て

- 単元の初めに学習準備プリントを用意する。
- 学習準備プリントで確認した内容を基に、段落構成図をプリントに作成させる。
  - ・ 段落ごとでまとめるために必要な語句・部分を学習準備プリントから抜き出させる。
  - ・ 段落や語句・部分同士を記号でつなげさせ、「書き手の思考の流れ」をつかませる。
- 他班の段落構成図と見比べて相互評価をさせ、「書き手の思考の流れ」をより深く理解させる。

学習準備プリントと段落構成図作成用のプリントを使い、段落同士や語句・部分同士の関係性を記号で可視化することによって「書き手の思考の流れ」の把握につながられた。さらに、つながりを可視化することにより、協働学習で「書き手の思考の流れ」についての意見を交換し、共有化しやすくなった。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 実践2の後行ったアンケートから、「つながりや流れを意識するようになった」という生徒の感想が得られた。これは、学習準備プリントと段落構成図を利用することでどのように話し合うかが明確化し、生徒が「書き手の思考の流れ」を捉えやすくなったからだと考えられる。
- 段落構成図使用後では「文章の理解が進む」という感想が得られた。また、定期考査等の記述による解答もよりの確な内容へと変化した。これは、学習準備プリントの解答を段落構成図に利用したこと、細部の理解を踏まえた要旨の正確な把握につながったからだと考えられる。

### 2 課題

- 段落構成図の記号の使い方に迷いを感じた生徒もいた。授業者は、流れをつなげる記号の意味を簡潔、かつ明確に生徒に示し、共通理解を徹底する必要がある。
- 段落構成図をグループで相互評価する場合、生徒の判断基準がつながりの正確さではなく色や形になることがあった。段落構成図を作成する意図を生徒に徹底しなければならない。

<授業実践>

実践 1

1 単元(題材)名 小説(1)「羅生門」(第1学年・1学期)

2 本単元及び本時について

現行の高等学校学習指導要領解説には、「文章の的確な理解には、小説においては書き手の思考の流れを掴むために作品全体の筋や、場面や心情の変化などという物語の展開を確かめることが必要」とある。

本題材は、登場人物の心情描写が詳細に記されている。したがって、登場人物の心情の移り変わりをおさえることで、「書き手の思考の流れ」をつかむことができるはずである。協働学習を通して心情の移り変わりを把握することで、より深く正確に「書き手の思考の流れ」を理解できるだろうと考え、授業計画を立てた。また、学習準備プリントを用意し、そのプリントで確認した内容を踏まえて話し合いが行えるようにした。

本時は全8時間のうち7時間目に当たり、登場人物である下人が盗人になるまでの心情の移り変わりをおさえることで、その人物像を理解させることを目標とする。

3 授業の実際

生徒は学習準備プリント(図1)や授業によって、話の大まかな流れは既に理解している。本時は4人一組の班を作り、協働学習を行った。

羅生門 その2-2  組 尊・氏名	③ p18・L9、L10「今日の空模様も……影響した」について、わかりやすくなるように、空欄に適語を入れよ。	今日 <small>の</small> 空模様 <small>は</small> (1) ( ) も 下人 <small>の</small> ( ) <small>に</small> 影響した (2) 下人 <small>の</small> ( ) ( ) 気持ち <small>に</small> 拍車をかけた	④ p18・L12、p19・L2「どうにもならないこと」が指しているものを文中から六字で抜き出せ。	⑤ p19・L2「手段を選んでいるとまはない」について 1 「手段を選ぶ」とはどのようなことが、空欄に適語を入れよ。 (1) ( ) (2) ( ) (1) ( ) (2) ( ) (1) ( ) (2) ( )	2 なぜ「選んでいるいとまはない」のか、空欄に適語を入れよ。 選んでいけば (1) ( ) (2) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )	⑥ p19・L6「すればは……結局すればであった」とあるが、なぜか。次の一文に つながるように文中の語を使って答えよ。 「盗人になる」という悪行を から。
-------------------------	--	---	---	--	---	--

図1 学習準備プリント

## 生徒の活動の流れ

(1) 各班でノート、学習準備プリントを参考にして、下人の心情描写に当たる部分を、教科書から見付け出し、△印を付けチェックした。その後、△印を付けた部分を班の全員で共有した(図2)。以下は、その際の生徒の協働学習の様子である(Tは指導者、Sは生徒を表す。以下同じ)。

T : それでは、各班で本文中の下人の心情に傍線を引いて、△印をその横に付けてください。もし心情かどうか迷ったら、これまでのノートや学習準備プリントを振り返ってみて話し合ってください。

S 1 : 「あらゆる悪に対する反感」って、心情なのかな？

S 2 : 辞書には「反抗したくなる感情」ってあったよ。いいんじゃない？

S 3 : 先生、「盗人になる気でいたことなどは、とうに忘れてる」っていうのは心情ですか？

T : 「忘れる」は動詞ですから、心情と言われるとちょっと違いますよね。プリントにも、ノートにも心情とはしてませんよね。

このように、授業や学習準備プリントで既習したことを基に話し合い、心情をチェックした。しかし、話し合いでも判断がつかない場合は、指導者の簡単な助言を参考にしながら考えた。



図2 活動(1)の様子

(2) 班の担当者がページごとに△印を付けた部分を黒板に板書し、下人の心情をクラス全体で共有した(図3)。特に下人の心情に大きな変化が見られる、羅生門の下での場面、老婆との出会いの場面、老婆の話聞いた後の場面での心情を重要事項として確認し、その場面を中心に話し合いを行った。

見付け出した心情の移り変わりをふまえ、どのような人物像にしたのかを話し合った結果、「優柔不断な人物」「周囲の影響で考えが変わりやすい」などの意見を出し、下人が老婆の主張を聞いて盗人になったのは、そのような人物像に関係するということを理解した。



図3 活動(2)の様子

## 4 考察

個人学習に比べ協働学習では、主体的に授業に参加する生徒の姿を見ることができた。授業実施後のアンケートにも78%の生徒が「よく協働学習ができた」と回答している。

しかし、協働学習が「書き手の思考の流れ」を理解することではなく、話し合うこと自体を目的として行われてしまったために、効果はあまり上がらなかった。授業アンケートの結果を見ても、38%の生徒が「登場人物の心情の変化が分かりづらかった」と回答している。原因としては、用意した学習準備プリントが本文の部分把握には役立ったものの、段落や語句・部分同士をつなげて「書き手の思考の流れ」を理解する仕掛けとしては弱く、話し合いの方法や内容を生徒が明確にできなかったからだと考えられる。この問題を解決するには、協働学習での話し合いのよりどころとなるとともに「書き手の思考の流れ」に意識を向けられるプリントが必要になる。そこで、実践2では学習準備プリントで確認したことのつながりや、段落ごとのつながりを可視化できるプリントを用意することとした。



## 実践2

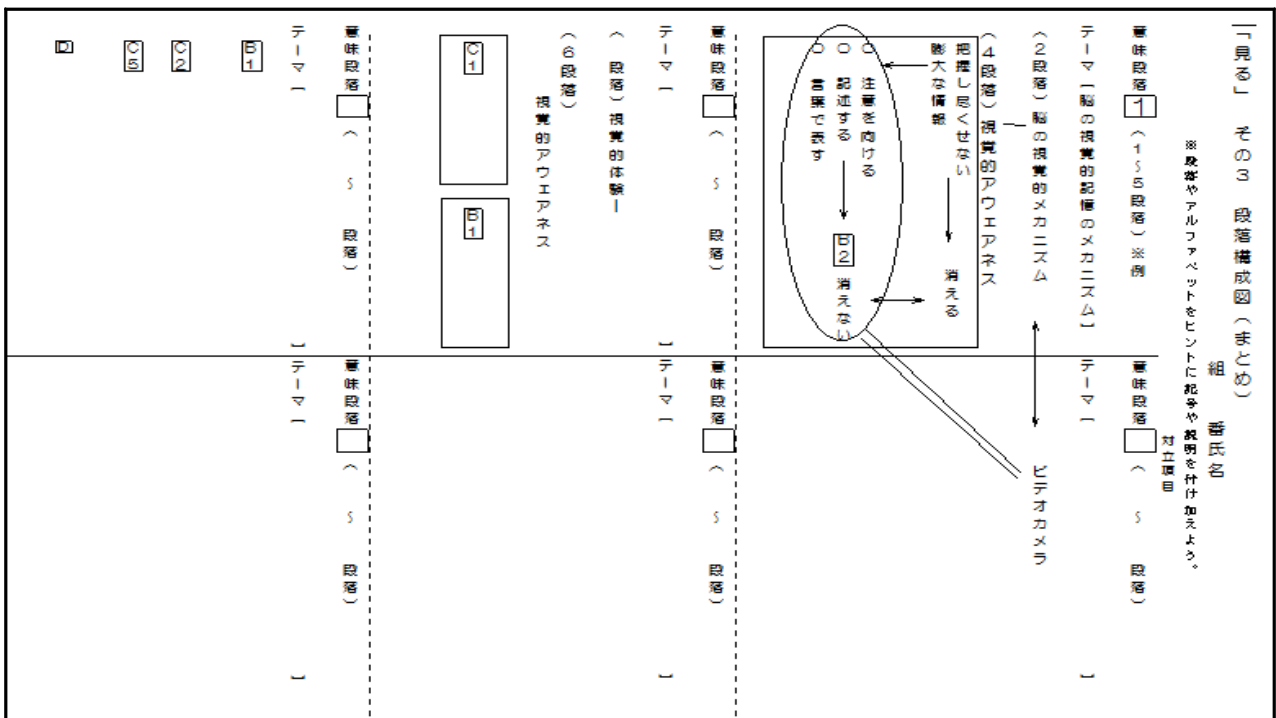
### 1 単元（題材）名 評論（3）「見る」（第1学年・2学期）

#### 2 本単元及び本時について

本単元は、前単元である評論「水の東西」で習得した評論文の基本的な読み方を活用し、その上で書き手の問題意識や論拠、それに基づく主題を的確に読み取る能力を養うことをねらいとする教材として位置付けられている。評論としてはそれほど難解な語句はなく、生徒は本文をスムーズに読み進めることができるとされる。ただ、「書き手の思考の流れ」を理解するには「水の東西」よりも慎重に段落や語句・部分同士のつながりを捉えていく必要がある。

前単元の「水の東西」及び本単元の「見る」では、実践1で明らかとなった課題を基に、「書き手の思考の流れ」を理解するために新たに段落構成図作成用のプリントを加えた。段落構成図とは学習準備プリントで確認した語句・部分を記入し、「→（進展）」「＝（同義）」「↔（対立）」「—（関連・補足）」といった4種類の記号で、段落や語句・部分同士のつながりを可視化するものである（図4）。段落構成図を協働学習の際に用い、「書き手の思考の流れ」を可視化することで、話し合いの方法や内容も明確化できると考えた。本時は全6時間のうち5時間目に当たり、生徒がそれぞれ作成した段落構成図を、班での協働学習でまとめ、さらに他班の段落構成図を評価する。その活動を通して段落や語句・部分同士のつながりと重要事項を生徒全員で共有させ、「書き手の思考の流れ」をより深く理解させることを目標とする。

図4 段落構成図



#### 3 授業の実際

授業の導入部分で、前単元の「水の東西」での授業を振り返らせ、まとめとして利用した段落構成図の作成方法について確認した。

- ・ 記号は「→」は内容の進展（具体化・抽象化・例示など）を、「＝」は同じ事柄・内容を、「↔」は対立や異なる事柄・内容を、「—」は関連・補足事項を表すこととし、この四つに当てはめる。
- ・ 重要事項は赤で目立つように書く。その他の色使いは自由とする。
- ・ 主要事項はプリント上段に、対立事項は下段に記入する。

以上を踏まえて、生徒は各自で作成した段落構成図を班ごとにまとめ、自班の段落構成図と他班のものを見比べて評価し合った。

## 生徒の活動の流れ

(1) 4人一組の班を作り、生徒が各自作成した段落構成図をもとに、班ごとの段落構成図を作成する。その際に、自分と他人の使用した記号に違いがあったり、つながりが分からなかったりしたところは、ノートや学習準備プリントを参照した上で、班内で話し合っ解決した(図5)。

(2) 1～5班、6～10班の2グループに分かれ、グループ内の他班の段落構成図を順に評価し、メモに記述させた(図6)。

評価では段落や語句・部分同士のつながりに着目し、適正な記号が使われているか、「書き手の思考の流れ」が分かりやすく可視化されているかを観点とした。また、相違点や、気付いたこと及び感想などもメモをした。

以下は班ごとの評価の様子である(図6)。

- S1: この班は矢印にいろいろな色を使ってきれいだね。
- S2: (他班の段落構成図を見て) えっ!? 意味段落1と2の間にもつながりの記号が必要なの?
- T: 原則的にはどの文章でも意味段落同士はつながっているものなんですよ。
- S3: うちの班ではスペースの都合で下の段に重要事項を書いちゃった。
- T: なるべくルールは統一した方が、紛らわしくなくて良いと思います。ただ、きちんと赤で囲んであるので、そこは良いです。

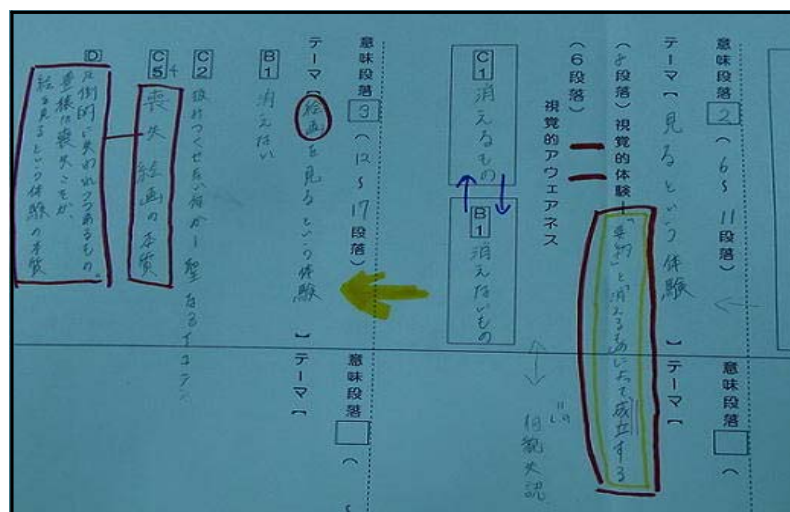


図5 生徒が実際に班で作り上げた段落構成図



図6 評価の様子

## 4 考察

実践1に比べ、生徒は「書き手の思考の流れ」を理解するという目的を意識しながら協働学習を行うことができた。段落構成図を使って学習準備プリントで捉えた内容のつながりを可視化することで、話し合いの内容や方法が明確となり、課題を共有することができたからであろう。授業後、段落構成図についてのアンケートを行った結果、「文章の流れを意識するようになった」「文章全体を見通すようになった」「文章が理解しやすくなった」と多くの生徒が回答した。段落構成図は、生徒が文全体を見通し、「書き手の思考の流れ」を理解する手立てとして有効であったと言える。

また、この授業後、段落構成図を利用し、文全体の要旨を生徒にまとめさせた。すると、段落構成図利用前はほとんどの生徒が的確にまとめることができなかつたのに対して、利用後はほぼ全ての生徒がまとめられるようになっていた。

一方で、段落構成図で使用した記号の意味が曖昧になってしまい、つながりが理解できない生徒もわずかに見受けられた。また、相互評価のときにつながりよりも色使いに目を向けてしまった生徒もいた。どちらの場合も、文章を読むときに、つながりを意識させながらその関係を記号化する機会を多く与えて、反復することで解決していくと考えられる。